

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400046		
法人名	ウエルエージング株式会社		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	栃木県佐野市吉水町991-1		
自己評価作成日	令和元年11月29日	評価結果市町村受理日	令和2年3月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	令和元年12月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根差した温かで暮らしやすい施設それぞれニーズに特化したオーダーメイドのその方に合わせた施設として創設10年以上の経験の蓄積と新しいアイデアを取り入れた介護施設の枠にとらわれない自由で元気な生活にこだわったお客様らしい意思を尊重する施設。御家族や地域の人に支えられ、外に開かれたオープンな施設づくりをモットーに少人数ならではの良さと柔軟で明るい施設を目標に職員一丸となって施設運営にあたっています。看護師も多数配置することで健康面のフォローも充実しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は佐野市北部の郊外で、近くには小学校や道の駅などのある静かな場所に位置している。「個人、個人を尊重し、オーダーメイドの介護」という事業所理念を管理者と職員が共有し、常に利用者をも最優先に考え、利用者に我が家と思ってもらえるような生活の支援に努めている。看護師資格のある常勤職員がおり、適切な医療受診にもつながっている。家族には毎月本人の顔写真付きで近況をメモにして伝えるなど情報を提供しており、来訪し易い環境づくりに努めている。地域の行事や事業所の行事等で地域住民との交流も多く、運営推進会議などを通して自治会の協力を得たり、近隣の方から野菜の差し入れや物品をいただいたりと、地域の一員としても日常的にオープンな付き合いが行われている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人個人を尊重しオーダーメイドの介護理念としてその人らしい生活が送れるように日々目指しています。	管理者と職員は、朝のミーティング等で事業所理念を絶えず確認し、利用者の個人個人を尊重し、利用者が主体であるということを念頭におき支援に努めている。常に現状に合った理念を管理者は、職員ともに考えていく姿勢を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し運営推進会議には、地域の方に参加して頂いています。	地域の文化祭に俳画など利用者の作品を出品したり、小学校の廃品回収に協力している。事業所の納涼祭に地域住民を招待し楽しんだり、地域の人から野菜や不用となったマッサージチェアをもらうなど、日常的に気楽に立ち寄れるよう関係が確保されている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で最新の認知症情報やインフルエンザについて発表し理解を深めて頂けるように努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方やご家族様の意見や要望などを頂いてサービスの向上に生かしています。	会議は町内会役員、民生委員、主任児童委員、市担当者、利用者、利用者家族等の参加のもと開催している。活動状況報告の後、年間テーマ及びその時々の議題を話し合い、事業所への評価や意見要望をもらっている。その結果を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多様なニーズに対応が分からない時は市役所の介護保険課に連絡し電話や訪問し相談している。	市担当者とは運営推進会議の場や電話、メールなどで情報の交換が円滑にできている。これまでも運営に関しての相談事などにおいて適宜助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり。会議を三カ月に一回行っている。実際に事例を出す検討なども行っています。	所属法人に身体拘束委員会があり、当事業所からも委員が1人出席し、3か月ごとに会議を開催している。法人全体で年2回職員研修も実施している。職員は「身体拘束を行わないチェックリスト」を活用しながら業務にあたっており、身体拘束につながらないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力や一方的な介護も虐待につながる可能性があることも職員には、随時指導を行っています。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設では利用している入居様を通し制度について職員が説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時にはご家族様が分かるように説明し疑問点には、答え理解して頂けてから契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月一回、利用者様のご様子を担当職員が書面にし送っている。面会時には、直接要望を聞くように心がけている。朝の申し送りには、伝達しケアに生かしている。	家族には面会来所時の他、事業所のイベントや新年会に参加した時など要望や意見をもらっている。毎月送る利用料請求書に、利用者の生活状況と顔写真を載せた「生活報告書」を同封している。家族からの要望等には会議等で対応を確認しフィードバックするようにしている。	今年は職員の異動が多かったとのことから、本人や家族の不安が心配される。家族が多く参加されるという1月の新年会には、機会をとらえて意見や要望を丁寧に吸い上げられるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りに職員から意見を聞き月一に会議を行い、意見や提案を日々の業務に生かしている。	朝の申し送り時や毎月の職員会議で職員の意見提案を聞いている。管理者は、日常業務中も職員の中に溶け込み、職員が話しやすい環境づくりに努めている。職員会議は、会社の配慮もあり全員出席している。職員からは様々な提案が出され業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞きながら環境整備を行っている。就労意欲と目標を見失わないよう職員面談を定期的に行って向上心を高めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列施設も含め二か月に一回程度、講師を招待し様々な勉強会を行っている。外部研修への参加も積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で管理者会議や看護師やケアマネ会議に出席し情報交換を行いケアの向上につながるよう取り組んでいる。他施設の各種委員会との意見交換も盛んにおこなっている。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期訪問時に必ずご本人に話を聞き不安や要望を伺いサービスが利用できるように努める。一度だけでなく何度もお話しを伺って真のニーズをつかめるよう努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族様とも面接し介護上での不安や要望を聞く機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、困っていることに対しサービス内容の説明や利用方法などを話しながらご家族様やご本人が安心して施設利用が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや片づけを職員と共に一緒に行っていた。わからない事や昔のことなどを教えていただき人生の教師として先輩として大切に敬っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の思いや様子など面会時に話し、ご家族様との関わりを大切にしている。請求書にその月の生活の様子を同封して施設での生活に直接関心を持っていただくよう工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	御家族様や知人がいつでも気軽に面会できるように心がけている。疎遠になりそうな可能性がある場合には面会をお願いを毎月発行する施設からのお知らせに記載し、もし来ていただけない時は施設主催のイベントや家族との交流会を催してご招待し、無理のない形で少なくとも年数回昔からの知り合いや御家族と触れ合える機会を設けられるよう支援をしている。地域や自宅へ積極的に外出していただき生まれ育った町や環境で御家族と過ごす時間も大切にしている。	近くに住む利用者の友人や知人が来た時には、和やかにくつろげるように職員がお茶・お菓子などを部屋に運んでいる。利用者から墓参りに行きたい、会いたい人がいるなど、要望があれば家族に協力を依頼するなど、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様と職員が常に笑顔で過ごしている。職員が利用者様との間に入り会話が和やかに出来るように配慮している。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援終了後も必要に応じて相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との話す時間を作り希望などを聞くようにしている。	午睡の静かな時間やその他できる時に利用者から意向や要望を聞いている。困難な場合はつまらなそう、悲しそうといった顔の表情などから感じ取っている。若い頃の様子、仕事、これまでの生き方などの家族からの情報も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報収集時に今までの生活歴や環境について聞き取りやご家族様に聞き把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	多様なレクリエーションを考え、残存機能を残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様には面会時や体調の変化をすぐに連絡し報告し計画書の見直しを行っている。	本人・家族の意向を聞き、職員会議・カンファレンスなどで夜勤者を含め職員の意見を聞き、訪問医の助言をもらい、ケアマネジャーが介護計画を作成している。計画の見直しは半年ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や日誌と伝達ノートで情報の共有し介護計画書が適切に見直されるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様と一緒に外食や外泊をされている。以前の生活が出来るように支援している。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容を活用している。地域の行事や住民の方と交流し、ボランティアやもしもの時の見守りなど多岐にわたりご協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの馴染みがあるかかりつけ医院を継続し、受診の希望がある時は支援を行っている。	かかりつけ医は本人・家族の希望を確認した上で決めているが、訪問診療を行う医師をかかりつけ医とする利用者もいる。事業所には常駐の看護師がおり事業所、医師、家族間の情報伝達はスムーズに行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師がいるので体調変化がある時は常に報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、必ずサマリーを作成している。退院時には病院からのサマリーを頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望されている方は、御家族様と何度も話し看取りの同意書にサインをして頂いている。	利用開始時に緊急時の対応についての意思確認書を利用者・家族と事業所で取り交わしている。終末期を迎える利用者に対しては看護師が、看取り対応も含めた方針を立て職員が共有している。24時間対応できる医療機関もあり、家族との連携のもとに看取りにも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故に備えてマニュアル作成を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。地域の区長、民生委員など地域住民にも訓練に参加いただいたり推進会議で最新の情報を頂くなどして近隣に施設を理解して頂きご協力いただいている。	今年度夜間想定も含め2度の避難訓練を行った。民生委員や自治会長の参加も得た。自治会長から災害時の物的協力の話もいただいた。年内に3回目の避難訓練を予定しており、地域住民に参加の声掛けをする予定にしている。事業所に水、食糧の備蓄も行っている。	

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いなど利用者様を尊重することに努めている。居室に入る時はノックと入室の許可を頂くようにし、入り口を開放したままにしないなど心掛けている。	職員は「利用者は人生の先輩であり、大切なお客様」として丁寧な言葉遣いを心がけており、声かけは利用者本人の意思を尊重し、自発性を損ねないように注意して行っている。職員は社内研修などで接遇の向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現が難しい利用者様には、顔の表情や顔色で判断し気持ちを理解するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが柔軟に対応している。施設の都合で無理強いをしないよう気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問理容に来てもらい希望者のみ行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様から希望のメニューやリクエストを取り入れ食事のもつ精神的な側面にも配慮し食後には簡単な片づけなども行って頂いている。	利用者から希望を聞き、管理者が食材を管理し、季節の物を取り入れた食事に行っている。おやつは手作りで水ようかんやゼリーなど、水分補給を考慮したものにしている。弁当を持って外出先で食べたりと食事を楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量や水分量を記録に残し職員間の連携を図っている。不足しているようであれば時間にとらわれずいつでも好きな水分や栄養が提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔体操を行っている。毎日の口腔ケアを行っている。能力的に難しい方にも介助にて口腔ケアを行って頂いている。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて記録し定時誘導を行い、汚染や失禁の軽減をしている。排泄パターンを把握し前もって無理なくトイレに行けるよう心掛けている。	職員が丹念に利用者を観察し、作成した排泄パターンを参考にしてトイレ誘導するなど利用者が失敗しないで排泄できるよう支援している。落ち着かない利用者には、医師に相談するなどしてその人に合わせた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取したり受診時に便の状況を主治医に相談し必要なら服薬での調整や食事に繊維類、乳製品、発酵食品を取り入れて便秘の予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタル測定後に入浴を楽しんで入浴して頂いている。夜間どうしても入浴を希望された場合は特別に浴槽を準備して柔軟な対応で入浴支援を行っている。	入浴支援は1対1だが介護度により職員2人対応もある。普段話せないことなど聞きながら、利用者が自分でできないところをお手伝いしている。どうしてもなった場合は夜間入浴も対応している。入浴剤やゆず湯なども取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを考えながら安心して休息できるように支援している。明かりや静けさを重視した環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理して提供しているが職員間同士で内服薬の確認と用法を情報共有することで症状の変化や減薬、増薬後の状態の変化を別の記録に記載して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりたいことや、やれること昔やっていたことなどを日常生活の中に取り入れ、縫製をされていた方や農家の方編み物をされていた方、俳句をよまれていた方のそれぞれの生活歴に合わせた役割や趣味を継続できるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクの時間や普段のコミュニケーションの中で行きたい場所ややりたいことを聞き出し、出来るだけ叶えられる外出に関しては職員と一緒に出掛け、及ばない部分に関しては御家族にご協力いただいて自由に外出できるようにしている。	天気の良い日には、近くの神社や高速道路の方まで散歩している。月1回は全員で事業所の車を使って、希望の場所への外出を楽しんでもらうようにしている。毎年1月には家族にも参加を呼び掛けて道の駅のレストランなどに出かけ、新年会を行っている。	



グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で保管しているが外出の際は職員が付き添って買い物をし、好みのものを選んだり支払いを自分で行って頂く等、積極的に経済活動に参加して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は、職員が内容を聞き連絡をしている。絵手紙なども郵送で送っている。必要に応じ御家族を通して知人友人にも連絡を取って頂くようお願いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁紙を作って楽しんでいる。季節感をとり入れたリビングの飾りつけ等常に居心地の良さ重点を置いた生活環境づくりを目指している。	リビングは大きなガラス窓からの太陽光で全体が明るく、温度・湿度や空気の管理がよく行われている。ソファや季節のクリスマスツリーが置かれ、壁には利用者作成の俳画等が飾られる等、季節感のある落ち着いた生活空間が工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	創作活動をしている利用者様にはそれぞれに別のスペースをご用意し、御入居者様同士がふれ合う集いの場には対面で座って頂けるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自分用のタンスなどを持ってきて頂き馴染みの空間で生活が出来るようにしている。昔の家族などの写真も飾り出来るだけ昔を思い出すような工夫をしている。	居室には利用者の好みの物、馴染みの物など自由に持ち込んでいる。立派なタンスを置いている人や冷蔵庫を置いている人、いつでも見られるように家族の協力のもと利用者が若い頃からの写真をパネルにして置くなど、居心地の良い居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることはご自身でやって頂き、普段の生活では体を動かす機会を多く取り入れ洗濯や炊事を職員と一緒にやっている。		